

A07a 京都産業大学 天文台設置について

米原厚憲、河北秀世、原哲也、三好蕃 (京都産業大学)

京都産業大学は、創設以来の念願であった天文台を、2015年(本学創立50周年)に向けて、大学構内に建設する予定(世界天文年である2009年の完成を目標としている)である。本学創設者の荒木俊馬博士が天文学者であり、創設当初より本学では理学教育・研究に力を入れ取り組んできた。このたび、こうした教育・研究の内容をより一層豊かなものとする施設として、更には一般公開等を視野に入れた教育普及・地域貢献のための施設として、天文台を建設するものである。

天文台には、日本の私立大学が所有する望遠鏡としては最大の、口径1.3メートルの光赤外線望遠鏡を設置する。この望遠鏡には、天文学を学ぶ学生の専門教育や実習、更には研究を行うための測光装置と分光装置を搭載する予定である。また、学内他学部の学生の教育や一般公開等を視野に入れた、観望のための装置についても検討を行っている。

京都産業大学は京都市内北部に位置し、その大学構内に天文台を建設するという事は、「公共の交通機関でいつでも気軽に訪れることのできる天文台」が建設されることを意味する。このような天文台は、全国でも類を見ないのではないだろうか? この立地条件の良さを活かして、地域に開かれた天文台としての活動や、理科離れ対策の一環としての小中高校生を対象とした天文教室などを積極的に行っていく予定である。

本講演では、この天文台で計画しているサイエンス、教育普及活動、などについてより具体的な内容を紹介する。